

21世紀夢の技術展（ゆめテク）開催記

齊藤義信

日本経済新聞社は、平成12年7月21日から8月6日までの17日間にわたって、東京・有明の東京国際展示場（東京ビッグサイト）で「21世紀夢の技術展」（ゆめテク）を開催した。先端の科学技術を青少年に分かりやすく紹介する催しは、112万人の来場者を集め2000年の話題のイベントであった。

1. 開催趣旨

日本経済新聞社は、世紀と千年紀（ミレニアム）の変わり目を機に、明るい21世紀到来の期待を込めた記念事業を1997年の春頃から検討した。当時は、まだバブル経済破綻の影が濃く、日本全体に閉塞感が漂い、来るべき21世紀への展望が見出せない状況にあった。ビジョンと方向を見失っている日本に活力を取戻すために何か提言できないものか——そのために、社内の横断的組織「2000年プロジェクト実行委員会」を設立、論議を重ねた。社外の企業の方も加わり、1998年秋に二つのプロジェクト実施を決定した。

ひとつは、来世紀の日本や世界のあり方を内外の有識者が議論していく連続公開シンポジウム「ミレニアム会議」で、2000年末までに9回開催した。

もうひとつが、この「21世紀夢の技術展」（ゆめテク）である。技術展は、明るい21世紀を実現する有力なけん引役である科学・技術にスポットを当て、次代を担う青少年やその家族に最先端の科学技術に触れてもらい、体験を通じた楽しさとともに、科学技術の大切さを理解してもらうことを目的としたイベントである。

2. 開催概要

最近の若者は理科離れと言われ、政府の関係省庁も頭を悩ませている。1999年、東大校長・理化学研究所長などを歴任されその事態を憂いていた有馬朗人文部大臣兼科学技術庁長官は、「科学技術理解増進3ヵ年計画」を構想、民間の活動とも協力しながら政策を推進すると発表した。

表-1 開催概要

名称	21世紀夢の技術展（愛称：ゆめテク）
テーマ	技術が開く明るい21世紀～人間と科学技術の調和を目指して～
会期	2000年7月21日～8月6日の17日間 10時～19時（日～木曜日）10時～21時（金、土曜日）
会場	東京国際展示場（東京ビッグサイト）
主催	日本経済新聞社
共催	東京都
特別後援	科学技術庁
後援	通商産業省、建設省、文部省、郵政省、農林水産省、厚生省、運輸省、外務省、自治省、環境庁（順不同）
出展者数	111社・団体（国の研究機関等47、自治体等15、民間企業49）
来場者と人数	小・中学生、高校生、大学生などの若者やその家族。来場者数計112万4728人
入場料金	大人・大学生1,500円、高校生500円、中学生以下、高齢者（65歳以上）は無料

その中で「ゆめテク」も取上げられ、科学技術庁をはじめ政府の全面的な支援を得ることができた。国の研究機関などの出展に弾みがつき、宇宙開発事業団（NASDA）、工業技術院、海洋科学技術センター、建設省建築研究所、土木研究所など47の各機関が出展協力した。以下、開催概要は表-1のとおりである。

3. ゆめテクの特徴

（1）テーマを五つの科学技術分野に設定

科学・技術の中から、21世紀に花開こうとしている5分野に大別して展示・実演した。5分野とは、

- 「情報・通信」
- 「生命科学」
- 「宇宙・海洋開発」
- 「環境保全」
- 「生活基盤」

各出展者がどのゾーンに展示するかを選択した。情報・通信ゾーンが、全展示面積の半分近くを占めた。

(2) 主な来場者が、青少年とその家族

先端技術を専門家に披露する展示会は数多くあるが、子供達あるいは主婦を対象にした催しはあまりない。今回は21世紀の明るい未来を子供達に提示しようという企画の趣旨から、主要な来場者を青少年とその家族と想定し、広報宣伝・動員活動を実施した。おかげで、総入場者数(112万)の半分以上がファミリー層であった。

(3) 国の研究機関と民間企業が一堂に展示

松下電器産業、NEC、ソニー、トヨタ自動車など日本を代表する有数の民間企業49社とNASDA、通商産業省工業技術院、理化学研究所などの国の研究機関47団体、地方自治体やその関連の12団体が出展した。科学・技術をテーマに民間企業と国が大規模に一堂に展示することはあまりなく、それだけに会場は博覧会の様相を示していた。

(4) 見て触って科学技術が分かる参加・体験型展示

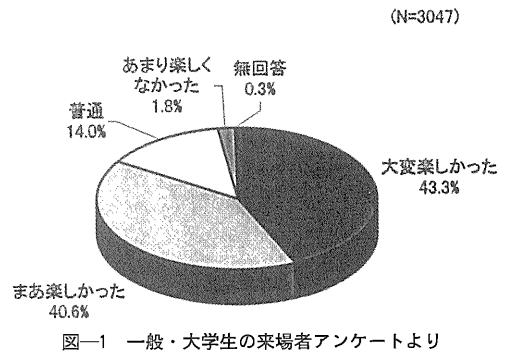
科学技術を理解してもらおうといっても、相手が小・中学生のためエンタテイメントな要素を盛込む工夫を凝らした。出展者には開催趣旨を十分理解してもらい、体験型のアトラクションや実験教室、クイズなどに参加してもらうなどバラエティに富んだ内容が展示され、幅広い層に科学・技術を楽しみながら理解できたと好評であった。

4. 反 響

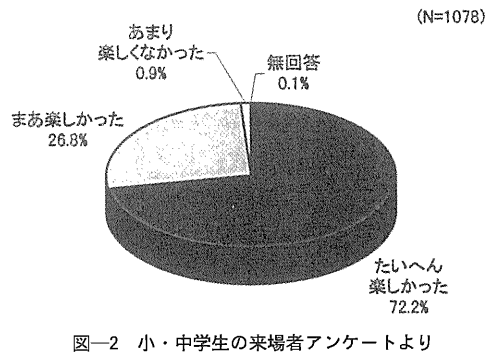
先端科学・技術をテーマにし、産業展示会や大規模博覧会とも違い、しかも想定来場者が家族連れという、かつて実施したことのないイベントのため、主催者をはじめ出展関係者は開幕まで気がかりであった。特に、主催者の当社は子供や主婦層を不得手とするところでのどの程度集客できるか読切れず、首都圏の教育委員会を通じてチラシなど相当数を小・中学校の生徒に配布したりするなど対策は講じていたものの経験不足は否めなかった。

しかしながら、出展者の工夫を凝らした展示やテレビ局などのマスコミが好意的に取上げてくれ

「ゆめテク」をご覧になった全体のご感想をお聞かせ下さい。



「21世紀夢の技術展(ゆめテク)」を見た感想をお答えください。



たこと、また森首相など8閣僚が視察に来るなど、夏休みという時期も手伝って目標の100万人を超える来場者を達成した。

展示会そのものについても「ゆめテクは面白いだけでなく勉強にもなった」「博覧会並に見所が多く、会期中何度も足を運んだ」と来場者の評判は上々であった。

最後に、「ゆめテク」が盛況のうちに終了できたのも、出展・協賛・協力を頂いた研究機関や企業をはじめ、後援・協力団体各位の多大なる御支援、ご協力の賜物と深く厚く御礼申し上げます。日本経済新聞社は今後も引き続き21世紀の科学・技術振興の一端を担うべく努力していく所存です。

【筆者紹介】

斉藤 義信(さいとう よしのぶ)
日本経済新聞社
2000年プロジェクト実行委員会事務局

